



# 乳がん検診 Q&A

## Q1. 対策型検診における乳がん検診とは？

マンモグラフィによる検査において、乳がんを早期に発見し、乳がんによる死亡率の低下を目的とした公費を利用した検診です。よって、詳細な検査は行えず、健常人からがんにつながる所見を見出し、二次検査へ促すための検査です。現時点では効果のある検査項目はマンモグラフィのみであることをご理解ください。また、あくまでスクリーニング検査であるため、詳細な結果は二次検査で明らかになることを従事者も理解してください。したがって、病名などの詳細な通知はしないようご注意ください。受診者に問われた場合は、二次検査にて詳細がわかること、専門医に相談するよう促してください。

## Q2. 検診方法は？

現在の乳がん診断における検査法には、さまざまな方法があります。（マンモグラフィ、乳房超音波検査、乳房 MRI、CT、PET-CT など）しかし、現時点で科学的根拠に基づき、検診としての有効性が証明されている検査法はマンモグラフィのみであり、対策型検診として推奨される検査法はマンモグラフィ検診のみです。

## Q3. 検診の間隔は？

乳がん検診における間隔は、受診者の有益性と不利益から考えられており、2年間の検診では40歳以上を対象としたマンモグラフィ検診では利益が不利益を上回っており条件を満たしているというデータがあります。これを基準に現時点での推奨は2年に1回のマンモグラフィ検診を推奨しています。

#### Q4. マンモグラフィ検診とは？

乳房内に X 線を照射し透過性を利用し、乳房を挟んで、圧迫し、1 側 2 方向の撮影を行います。判定はカテゴリ 3 以上を二次検診の対象とします。3 以上であっても（所見にもよりますが）、異常あり＝がんではないことを理解してもらい、二次検査で明らかになることも伝えるとよいと思います。

また検診を受けたことにより、乳房内のすべてがわかるわけでは無い事（画像診断には限界があること、診療では無い事）を伝えてください。

カテゴリ 1：異常なし

カテゴリ 2：良性

カテゴリ 3：良性、しかし悪性を否定できず

カテゴリ 4：悪性の疑い

カテゴリ 5：悪性

(カテゴリ分類：日本乳癌学会 乳癌診療ガイドライン web 版より引用)

(<https://jbcs.gr.jp/guideline/guideline/g5/g51610/>)

#### Q5. 被曝について？

がん検診に使用される医療機器は、検査における被曝が、健康被害に及ばない程度まで抑えられています。また、被曝による患者自身への不利益が、検査を行い、がんの早期発見、早期治療へ持ち込める患者利益を超えないよう制限があるため、心配はないことを伝えるべきです。マンモグラフィの場合 0.05~0.24mSv /1 方向/回×4 回（2 方向撮影）=0.2~0.96mSv/回（2 方向撮影）となります。これに対して自然放射線量は世界平均（年間）2.4mSv、日本（年間）1.4mSv、飛行機による移動（東京-ニューヨーク：往復）0.2mSv となっております。例えに利用ください。

## Q6. マンモグラフィで被曝面を気にする人、痛みを訴える人にはどう対応する？

被曝するから受けたくない、痛むからやりたくないと訴える受診者が多くみられます。被曝に関しては、前述した内容を理解いただき、利益、不利益の点から受診を勧めてください。痛みに関しては、圧迫や伸ばす手技はこれにより、より良い画像を作り、見落としの軽減につながることで、被曝量を抑える目的があることを理解するようになしていただくとよいと思います。

\* 受診者の中には検査を行ったので、詳細がわかるものと勘違いされている方がおられます。結果説明時に検診結果ではなく、症状の原因を質問される方もおられます。例えば、痛むのはなぜですか？張っているのは何が原因ですか？等。この場合、検診結果のみをお伝えする事と本来検診は症状のある方は受診対象外となる事をきちんと伝え、検診ではなく外来受診を推奨してください。

## Q7. 妊婦・授乳期の検診との兼ね合いは？

妊婦、授乳期は検診の対象外です。マンモグラフィ検診は妊婦の場合、被曝トラブル、検査時トラブル防止のため、推奨されません。授乳期の場合個体差はありますが、レントゲンの透過性が落ちる可能性があるため、検診本来の目的を十分に果たせない結果となる可能性があります。よって、対策型検診では、避けるべき時期です。

## Q8. 検診受診時期は？

対象年齢の乳房は生理がある場合は周期によって乳房の張り、変化が存在します（個人差はあります）。よって、なるべく張りの少ない、生理後1週間（排卵前）をお勧めください。婦人科の受診時期とは異なるので、同時受診はなるべく避けるように案内してあげてください。また閉経後は乳房の変化が、少なくなるため時期は関係がありませんが、張る方がおられる場合は張りの少ない時期を選んでいただくと圧迫等による本人負担が少なくなると案内してあげてください。

### Q9. 超音波検査は無効なの？

決して、無効な検査ではありません。しかし、検診として補助を受けて行うには科学的根拠が無い事、単独ではむしろ他の検査より検出能が劣る所見もあることなどから、対策型検診では現時点で行われません。

### Q10. 乳腺濃度について・・・。

昨今、乳腺濃度についての話題が出ています。これはマンモグラフィにおける、見易さを判定するものであり、海外で始まった are you dense?運動が始まりです。この理解には様々な説、解釈があるため、現在現場で混乱しています。この件に関する対応は、平成30年3月31日付にて厚生労働省より文章がまとめられ各自治体へ資料が配布されていますのでご確認ください。

これらの件を問われた場合は、専門医へ相談するよう促してください。

